幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　５６号
令和７年　９月　１日

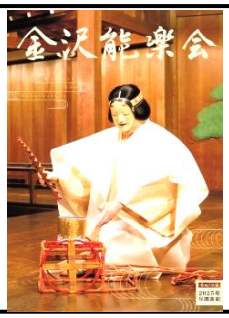
あさひまつり
ふれあい横町に参加

第五〇回あさひまつりが、七月二十六日開催されました。当会では幸若舞のＰＲも兼ねて、ゲームコーナーを開設しました。昨年に引き続く「輪投げゲーム」のほか、今回は「ダーツゲーム」と「スタッキングカップ（カップの積み崩し時間を競う）を取り入れました。大人も含めていずれも大人気で用意した景品は品切れとなってしまいました。

研修旅行予告！

本年の秋季研修旅行は都合により、１２月に実施します。概要は下記のとおりで詳細は次号にご案内いたします。

日　時　１２月７日（日）午前８時３０分出発　役場駐車場
行　先　金沢能楽堂（宝生流能鑑賞）＆近江町市場（昼食）
参加費　￥５，０００．／人前後　　中学生以下￥2000



幕府の式楽となった幸若舞の雅の世界がかって西田中地区にあったことに思いをいたしましょう！

幸若歴史愛好会開催

松平春嶽と橋本左内⑬⑭⑮

角鹿講師による研究会がさる五月二十七日、六月二十四日及び七月二十二日開催されました。

五月二十七日　左内の弟網常に焦点を当てた最終回にあたるものです。

①左内の御書院番当用後、医家を継いだ網常は蘭学をおさめ、長崎へも遊学、蘭方医学を学ぶ。

②戊辰戦争や会津戦争に官軍軍医として従軍し、負傷兵手足の切断治療など外科医としてすぐれた技量を評価された。

③その後は陸軍軍医としての道を歩み、軍医総監などを歴任した。

④後進国日本と見られて、難航していた万国赤十字条約加盟にも尽力し、明治二十年四十三歳で日本赤十字社初代院長に就任した。

⑤その後も、日清・日露戦争において、従軍軍医・看護婦の制度充実に尽力し、子爵を授けられた。

六月二十四日　西郷隆盛及び母・梅尾宛書簡

⑥安政四年、左内と西郷はともに、大奥工作を行っており、左内は西郷から大奥の女性向けの冊子（一橋公行状記）作成を依頼されていた。

⑦この冊子について、西郷が早期作成を左内に督促した時の左内の返信が残されている。脱稿分を使者に渡し、残りも明日お渡しますという内容である。

⑧この短簡は西南戦争時において、西郷は最後まで所持していたという。

⑨安政六年、江戸福井藩邸に幽閉中の左内は、心配する母。梅尾に何通も書簡を送っている。

⑩今般のことは全くの私事でして、世間には恥ずかしいのですが、義理に反することは毛ほどもしておりません。今日まで謹慎して出歩かぬため風邪一つひかず元気でおります。

⑫春嶽公より拝領した麝香を送ります。内々の物ですから、外にはお話になりませぬように。

七月二十二日　半井仲庵宛書簡

⑬福井藩医半井仲庵から仲介依頼された貴人某宛の文章の添削への返答である。

⑭文章の添削はむやみに頼むべきでない。本人が徹底的に推敲すべきである。

⑮そのことにより文章の個性が表れ上達する。

安土城シンポジウム参加者募集予告！

すでにかわら版第５４号などに記載しておりますが、かねてから交流のある滋賀県近江八幡市で活動している「安土城再建をめざす会」より、きたる１１月２４日に開催されるシンポジウムに協力要請がありました。シンポでは安土城再建や信長と幸若舞との関係について討論される予定です。当会としても、会員を派遣し聴講・ＰＲを考えております。詳細は次号かわら版でご案内しますがご承知おきお願い致します。

朝日小学校で出前授業

さる六月二十六日午後、朝日小学校音楽室で幸若舞に関する出前授業を行いました。同校の伊藤教諭の指導で五年生六十四人の皆さんが、郷土研究を行っていますが、その一環として、当里づくり会が招かれました。

当日は、児玉、青山、橋本、松田、内藤の五名の会員が説明にあたりました。

まず松田会員による現代版幸若舞「敦盛」を踊りました。次いで、希望の児童に幸若舞衣裳の着付けを指導するとともに、扇の取り扱いや足の運びについてなど踊りの基本的な所作について、簡単な指導を行いました。日頃の経験はなく、興味がわいたのか、用意した衣裳が足らなくなり、希望者が多く二回に分けて実施しました。

休憩後、後半の時間では澤崎前会長の遺作である紙芝居十六画面を説明しました。

幸若舞の西田中での発祥、戦国武士に好まれたこと、徳川幕府の式楽となり保護を受けたこと、舞を担った幸若一族に領地が安堵されたこと、しかし歴代将軍の嗜好が変わり疎まれようになったこと、明治維新の改革により幸若一族が禄を失い、幸若舞も途絶してしまったこと、その後舞の復元の運動もあったが成功していないなどを話しました。

最後に、越前町の誇りとして、ホッケーの全国優勝などがあるが、芸能・文化面でも、幸若舞を復元これを磨き上げて全国にアピールしていこうと訴えて出前授業を終了しました。

当面の主な日程

白山神社秋祭り	９月２３日（火）
幸若歴史愛好会	９月２６日（金）
劔神社観月会	１０月　５日（日）
安土城シンポ	１１月２４日（日）

天王川渇水
令和七年七月

人工知能AIによる幸若舞分析④

質問４　近世における幸若舞の盛衰と、その要因についてまとめて回答しなさい。

近世における幸若舞は、当初は将軍家の庇護を受け隆盛を極めましたが、その後、次第に衰退していきました。その盛衰と要因について、以下の３つの時期に分けて詳しく見ていきましょう。

1. 徳川将軍家による庇護と隆盛（～17 世紀半ば）
江戸幕府を開いた徳川家康は、三河時代から幸若舞を愛好しており、その後も秀忠、家光、家綱と４代の将軍に渡り幸若舞は庇護を受けました。幸若舞は幕府の式楽となり、将軍家から領地を与えられるなど、他の芸能と比べて高い地位を得ていました。

この時期の隆盛の要因としては、以下が考えられます。

武家社会における価値観との合致: 幸若舞が題材とする軍記物語は、武家社会の価値観や倫理観と合致しており、武士階級に広く受け入れられました。
政治的利用: 将軍家は、幸若舞を政治的なプロパガンダとして利用しました。 幸若舞を通して武家の権威や秩序を強調することで、幕府の支配を正当化しようとしたと考えられます。

2. 歌舞伎・浄瑠璃の台頭と衰退の兆し（17 世紀後半～19 世紀）
17 世紀後半になると、歌舞伎や浄瑠璃といった新たな芸能が台頭し、人々の娯楽の中心が変化していきます。 これらの芸能は幸若舞よりも視覚的に華やかで、物語も複雑で多様性に富んでいたため、人々の関心を集めました 2 4。 一方、幸若舞は、伝統的な様式を固持し、変化を嫌ったため、次第に人々から飽きられていきました 。

この時期の衰退の要因としては、以下が考えられます。

娯楽の多様化: 人々の娯楽が多様化し、幸若舞以外の選択肢が増えたこと。
保守的な芸風: 幸若舞が伝統的な芸風にとらわれ、時代の変化に対応できなかったこと。
他の芸能との競合: 歌舞伎や浄瑠璃といった、より視覚的に華やかで物語性に富んだ芸能との競合に敗れたこと。
3. 地方への伝播と変容（18 世紀～）
近世に入ると、幸若舞は地方にも伝播していきます。 しかし、地方では、中央とは異なる形で幸若舞が発展していきました。 例えば、九州の大江では、大頭と呼ばれる流派の幸若舞が伝承されていますが、これは、中央の幸若家とは異なる独自の系図を持っています 。 また、各地の寺社祭礼や民俗芸能にも、幸若舞の影響を受けたものが多く見られます。

この時期の地方における幸若舞は、中央とは異なる以下の特徴を持っていました。

民衆化: 中央では武家社会の芸能であった幸若舞が、地方では民衆に親しまれる芸能へと変化していきました。
地域化: 各地の風土や文化に合わせて、幸若舞の演目や演出が変化していきました。
近世における幸若舞の衰退の要因まとめ
以上を踏まえ、近世における幸若舞の衰退の要因をまとめると、以下のようになります。

歌舞伎・浄瑠璃の台頭による娯楽の多様化
時代の変化に対応できなかった保守的な芸風

これらの要因により、幸若舞は次第に中央では衰退していきましたが、地方では形を変えながら伝承されていきました。

本資料は、昨年１２月８日山口明彦氏に講話をいただいたときに示されたものです。ＡＩに読み込ませた資料は次の通りです。越前町教育委員会「幸若舞とは」および「戦国大名が愛した幸若舞」、徳江元正「幸若舞曲語り物」、須田悦生「幸若舞の展開ー芸能伝承の諸相」、中尾薫「書評　須田悦生「幸若舞の展開ー芸能伝承の諸相」、佐谷眞木人「幸若舞「敦盛」の成立」および松井貴子「幸若舞「敦盛」から「人生五十年の試み」」
質問は５問あり、順次掲載しています。